

※令和6年2月16日9時30分～11時30分 正和幼稚園にて対面実施（保護者・地域住民・評議員・大学関係者）

1. 園の教育目標

1. それぞれのいのちを、こころ、からだ、自然から感じ取り大切にします。
2. 居心地のよい、安心できるこの場所で、「私は、私である」ことを実感します。
3. 社会の一員として、つながりあい、影響をあたえあいます。
4. 相手の思いを聴き入り、自分の想いも伝えます。
5. 試して、工夫して、つくりだす経験をします。自分なりに納得するまで探究します。

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

2023年度正和幼稚園は、「子どもの学びをまんやかに それぞれのやってみたいが集まる場」でありたいと思っています。

* インクルーシブ+ダイバーシティ保育促進

①多様な文化を受容する基盤をつくる

- ・多様な文化理解促進
- ・多文化共生ダイバーシティ保育の実践

②つながり・支え合う体制をつくる

- ・児童発達センター創設と利用予定者獲得

③2024年度に向けて医療的ケア児の受け入れ体制をつくる

- ・ダイバーシティ価値の実現
- ・インクルーシブ理解促進

* 地域の居場所づくり・伴走型子育て支援（新規国事業）への貢献

①定期的なゆったりラウンジの開放 ラウンジ原町田にて週3回（火・水・金 10-13時）

- ・地域の方に自分らしい時間が持てる場所を開放し利用者を増やす
- ・マイ保育園登録者数目標100名

②アウトリーチ型子育て支援事業の活動拠点を増やす

- ・積極的に地域に出向き、子育てをキーワードとした地域とのかかわりを強化

③理由を問わない一時保育利用の積極的な受け入れ

- ・地域の子育てパートナーとして気軽に園の一時保育利用をしやすい仕組みをつくる

* 保育活動エリアの充実

①屋外 木工活動エリア内容充実を通して、木工活動自体が日常のいとなみとなり、園の特色として対外的にも認識される

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1インクルーシブ+ダイバーシティ保育促進	5	特別支援とインクルーシブの観点がとても離れているわけではないという雰囲気が見えているところが良い。子どもたちも9か国の方々と繋がり、海外のルーツのある一時預かりが増えたことで、地域の居場所作り、地域の方々がどんどんと参画できていっており、地域への貢献という部分も行っていけているのではないかと印象を受けた。
2 地域の居場所づくり・伴走型子育て支援（新規国事業）への貢献	4	一時受け入れの数がどんどん増えている。また、職員間で共有し受け入れ体制の表などの確立ができています。地域の居場所作りは、山崎団地の名店会、自治会、地域施設、住民との連携により、山崎団地冒険遊び場を作り出していた。また、駅前での子育て支援活動やアウトリーチ型の一時保育等も実施していた。医療的ケア児の受け入れにはつながらなかったが、看護師が中心となり、定期的に勉強会や打ち合わせを実施し、受け入れ可能施設として、町田市の医療的ケア児受け入れ施設にも認定されていた。
3保育活動エリアの充実	5	保育活動エリアでは、木工エリアを助成金を活用し予定通り完成できていた。今後、活用をしていくことが期待される。

※結果について

5	十分達成されている
4	達成されている
3	取り組まれているが、成果が十分ではない
2	取組が不十分である
1	取り組んでいない

4. 設定した目標・計画・評価項目の設定は適切であったか

重点項目に沿ったプロジェクトを意識したものが展開されて行っている印象がある。子どもたちも9か国の方々と繋がりが、海外のルーツのある一時預かりが増えたとのことで、地域の居場所作り、地域の方々がどんどんと参画できており、地域への貢献という部分も行っていっているのではないかとの印象を受けた。正和幼稚園が地域のつながりを積極的にもち、地域の連携体制ができていっている。

5. 設定した目標・計画・評価項目の結果内容は適切であったか

医療的ケア児の受け入れ状態は確立できている。
駅前で実施している子育てのご家庭が集まれる場の開催も予定通り実施できていた。
一時受け入れの数がどんどん増えている印象である。また、職員間で共有し受け入れ体制の表などの確立ができている。

6. 今年度取り組むべき課題は適切に行われているか

実施できていた。特別支援とインクルーシブの観点がとても離れているわけではないという雰囲気が見えているところが良い。地域の居場所作りは、山崎団地の名店会、自治会、地域施設、住民との連携により、山崎団地冒険遊び場を作り出していた。また、駅前での子育て支援活動やアウトリーチ型の一時保育等も実施していた。医療的ケア児の受け入れにはつながらなかったが、看護師が中心となり、定期的に勉強会や打ち合わせを実施し、受け入れ可能施設として、町田市の医療的ケア児受け入れ施設にも認定されていた。保育活動エリアでは、木工エリアを助成金を活用し予定通り完成できていた。

7. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

2023年度の重点項目を発展させ、2024年度の重点項目に関してはさらに具体性が見えてきている印象がある。障害や発達の問題だけではなく、家庭などに要因にある方の受け入れ等も考えていくとよいのではないかと感じる。基本項目との関連性が見えてくるとさらに良いのではないかと感じる。もうすでに溶け込んでいる印象が受ける。保護者から見る視点としては加配状況が見えないくらい溶け込んでいる印象がある。「新規」ではなく、「既存」で良いのではないかと感じるほどである。「多文化共生社会の空間づくり設計」をさらに進めていくことの設定は適切だと考える。関係園の児童発達支援事業所みんぐるルーム@町田自然幼稚園への送迎体制を確立するのは、利用したい保護者にとってもメリットがあり必要とされている。また、「地域の居場所づくり」が「地域と共に居場所作り」と「共に」が入ったことにより、現在地域と共に冒険遊び場など地域の居場所作りをしている状況がわかる。2023年度、実際に木工エリアをつくることもできたので、今度活動の高度化を入れたのは、適切に設定できていた。

※2024年度の重点項目

- *多文化共生社会の空間づくり設計
- ①多様な文化を受容し、多角度からのアプローチを持続する
 - ・多様な文化理解促進
 - ・多文化共生ダイバーシティ保育の実践

②多様な食文化に触れる機会をつくる

- ・多様な食文化理解促進
- ・多文化共生ダイバーシティ食育の実践

③つながり、支え合う体制をつくる

みんぐるルーム@町田自然幼稚園への送迎体制を確立

④共生社会のいとなみ化

- ・誰でもが溶け込んだ空間づくり

* 地域と共に居場所作り

①地域の福祉ニーズに基づいた、子育て支援事業の充実

- ・誰でも使える施設利用の機会を増やす

②アウトリーチ型子育て支援事業の内容充実

- ・地域活動の関係人口を増やす。

③伴奏型子育て支援への貢献と一時保育利用の受け入れ機会を増やす。

- ・地域の子育てパートナーとして気軽に園の一時保育利用をしやすい仕組みを作る。

* 園内環境・活動の高度化

①木工エリアの営み化

- ・木工エリアなどを活用したSTEAM教育の促進

②ビオトープの整備

- ・園庭のビオトープを整備しより充実させ、生物への関心を高める。

③昔から伝わっている日本独自の食も含めた文化、伝統の体験を通した理解促進

- ・地域・日本の伝統料理を深め、体験する。